

オール日本スーパーマーケット協会

## 1. 協会概要

設立：1962年 会長：田尻 一

正会員：58社（3781店舗） 賛助会員：370社

## 2. 活動概要

- ・トップ経営研修会（毎月）、職位別教育研修、情報交換など（60～70回/年）、現場指導など（100回/年）
- ・流通他団体との業界連携活動（月次売上動向、年次統計調査、その他）
- ・正会員向けPB供給活動

## 3. 直近の物価高騰等に対する活動

2022年3月 部門別バイヤー研修会（価格高騰対策）計5回

2022年4月 トップ経営者・商品部責任者合同研修会（価格高騰対策 実務的情報交換） 資料別添

2022年4月 第1回コスト削減対策セミナー（省エネ設備・運用事例交換）

2022年6月 店舗運営責任者研修会（店舗運営面でのコスト削減事例交換）

2022年6月 第2回コスト削減対策セミナー（2011年発刊AJS節電対策ガイドラインの改訂報告）

## 4. 生産性向上の主な活動

部門別作業改善セミナー（人時生産性向上）：5回/年

部門別作業改善の現場指導：約500名/年

情報システム部門、販促部門情報交流会（自動発注、キャッシュレス、BMS、RPC、セルフレジ研究事例）：5回/年

プロセスセンター（生鮮食品・惣菜工場）導入情報交流会：4回/年

## 5. 本勉強会に期待すること

**現状の価格転嫁は適正に進んでいる認識（公正取引上の大きな問題はない）**

影響：6月売上減少大、チラシ特売が減少、複数調達、相見積もり（調達難の影響も）

懸念：PBでも価格維持は限界を過ぎると値上げ抑制競争の可能性もある（買ったたき）

原価高騰を吸収して販売価格を維持し、賃上げに対応するには小売りの抜本的な利益構造変革が必要

**生産性向上の取組はDX プラスアルファが必要（生産性向上のポイントを明確化すべき）**

・小売は薄利多売で利益が薄く、IT投資の余力は極めて少ない（キャッシュレス手数料だけで赤字）

・小売はIT投資が直接売上UP、生産性向上につながりにくく動機づけが弱い（胃袋は増えない）

・なぜなら、特に食品は工業製品と異なる大きな特性がある（生き物、衛生管理、加工、賞味期限・・・手間がかかる）

・家庭内の家事も誰かが手間と時間をかけている（IT化できていない部分）

・生産性向上は、工場加工（鮮度品質）・EDLP（特売なし）・売切れご免・人手掛けないサービスレス

・調達（自動発注・BMS）・製造（PC化）・販売（セルフレジ、キャッシュレス）の机上ではなく現場視察も必要

**電力料金、原料枯渇で食品の安定供給への強い危機感（並行した緊急対策を期待）**

・電力料金高騰は、コスト削減・生産性向上では追い付かない経営の急激な悪化（店舗閉鎖・倒産）の可能性

・国内産地疲弊・原料枯渇、世界的原料調達負けは、売りたいも物が無い状況も発生（水産物等）

・加えて物流危機もあり調達価格UPはもとより、食品を提供できなくなる危機感が強い

・家計に締める食費バランスを高めないと原料買い負けは続く（食のサプライチェーン問題、何の消費を喚起するのか重要）

以上

## 「2022 年 インフレ下における、商品値上げへの対応」 ～どのような視点で対応すべきか～

商品値上げは、気候変動、コロナ禍物流影響など複合的要因からの資源原料不足、世界情勢から原油高、円安、新興国調達量の爆発的増大による国際的調達競争など、様々な要因が一時に輻輳しているとも言えます。スーパーマーケットとして日常の食卓を支えるために、各企業での様々な対策が進む中、3月に開催しました各部門バイヤー研修会（オンライン）にて、現状の対応などから以下4つの視点が見えてきました。皆様が、どこを注視しているのか、何に取組んでいるのか、お持ちの情報（危機・チャンス）はないか忌憚のない議論をお願い致します。

### 1 . お客様意識の醸成

今までが安すぎた、値上げがある程度消費者にも理解されているPOPなどで正しく伝える努力を継続することが必要

販促研修会：伝える重要性、消費者意識変化

### 2 . 基本的対策の徹底

適切なデータ活用：Aランク価格対抗、値入と品揃え構成見直し  
商談交渉：他社状況と粘り、交換条件提示など  
値上げ時の段取り徹底：店舗作業増想定、事前拡販など  
コスト削減：消耗品、カトラリー、節約運用指導など

4/22コスト削減（省エネ取組み）対策セミナー開催

### 3 . 新たなMDへのチャレンジ

お客様の選択肢の拡大：大豆ミート、米油拡販など  
価値訴求へのチャンス：惣菜、味付け肉などオリジナル商品開発  
PB活用：くらし良好「みんなで売る！」と決めた商品」拡販

各部門バイヤー研修会、商品部責任者研修会で研究  
研修会以外での会員間情報共有（味付け肉事例etc）

### 4 . 商品値上げ以外の脅威の想定

生鮮原料の枯渇、国際的調達競争  
物流費の高騰（ドライバー不足2024年問題）  
災害・国際問題による電力・燃料費の急騰

5月度トップ研修会テーマ：食品物流危機2024年問題  
物流・プロセスセンター情報交流会（全6回）開催